

平成 2 7 年度

食品健康影響評価技術研究の 3 次公募における採択課題について

平成 2 7 年 5 月

食品安全委員会 研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

平成27年度食品健康影響評価技術研究の3次公募における採択課題

| 受付番号 主任研究者名 (所属機関名) | 研究課題名 (研究期間) | 研究概要 | 評点 (20点満点) | 評価所見 |
|-----------------------------------|--|---|---------------|---|
| 37 佐藤 恭子 (国立医薬品食品 衛生研究所) | 香料の摂取量に関する評 価方法の確立に関する研 究 (H27年度) | 我が国の新規指定香料のリスク評価における摂取量推計に必要とされる単位喫食量の設定を行うことを目的とする。具体的には、Codex(国際食品規格委員会)基準の食品分類及び我が国における食物摂取状況調査のデータを元に、香料の摂取量の評価手法であるSPET法(Single Portion Exposure Technique)に必要となる、食品分類及び単位喫食量の設定について検討する。得られた単位喫食量及び香料の食品への添加率等のデータを活用したSPET法により香料の摂取量推計を行い、JECFA(FAO/WHO合同食品添加物専門家会議)等における摂取量の評価方法及び評価結果との比較検討を行う。これにより、我が国の香料の摂取量に関するより妥当な評価方法を提案する。 | 16.5 | <p><総括コメント> 食品安全委員会が求める課題に沿った研究計画が提示されている。日本独自の香料の摂取も加味した評価法の確立が期待され、食品健康影響評価への貢献が大きいと予想される。</p> <p><個別コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> • 公募課題の内容を十分に満たしており、研究領域の趣旨に沿った研究内容となっている。短期間ではあるが、成果を期待したい。 • 実用化に直結する成果を期待する。 • 適任者で研究体制が組まれており、計画、方法も十分と考えられる。 • 評価に必要な研究である。より精度を高めるための研究の基盤となることを期待する。 • 本研究のメリットが理解できるよう、成果をわかりやすくまとめていただきたい。 |